

コメディリリック第1回「へたに経た」

「VRライフ」

登場人物

坂本 野彦

白石 シロスコフ

主任 ペイリー・チャイルド

※坂本、板付き

【L・明転】

坂本、VRゴーグルを装着してプーさんを抱えながらトリブルアクセル的な手の動きをしている

白石、坂本のゴーグルを外す

坂本 「そうですね。怪我の不安もあったんですけど、無事に金メダルを獲得できてとても嬉しく思います。日本中の皆さんのおかげです。本当にありがとうございます」

そっとゴーグルを戻す

主任 「見ての通り、彼は自分のことを羽生結弦だと思って生きてます」

坂本 「プーさんが大好きです」

主任 「かなり重度だな」

白石 「これがうちの会社のサービス…」

主任 「そうだね。「VRライフ」の「仮想人生設計サービス」」

坂本、4回転の練習をする

白石 「あれは何を？」

主任 「4回転の練習じゃない？」

白石 「はあ」

主任 「そんな悲しい目すんな！俺は悪くないと思うよ？だって、自分の憧れの人になつて生きていけるんだから」

白石 「東京ではこれが普通ですか？」

主任 「普通、普通。最近、自分の事を本田圭佑だと思いきんで生きてる人が多すぎてニュースになったりしてるでしょ？」

白石 「そうですね」

主任 「それで頑張れるんだからいいじゃん俺は思う。いいサービスだよ」

白石 「はあ」

坂本 「きつかけですか？プルシエンコ選手ですね。プルシエンコ」

主任 「ただあの人は3カ月、サービス料金の支払いが滞納してる。もう羽生結弦として生きていけない」

坂本 「昌磨！昌磨ちゃんとしろ！」

主任 「宇野昌磨君が見えてるんだな。残酷だ  
けど、もう彼は自分のことを羽生結弦と  
思い込んで生きていくわけにはいかな  
い」  
坂本 「ふーっ、はっ！（演技の最後のポー  
ズ）」  
主任 「俺たちの仕事は彼を現実世界に引き戻  
すこと。壊れないように丁寧な彼を羽生  
結弦から坂本三郎に戻してあげよう」  
白石 「はい」  
坂本 「ふーっ、はっ！（演技の最後のポー  
ズ）」  
主任 「まずは一人でやってみ？」  
白石 「僕だけですか？」  
主任 「二人掛かりでやると人格が壊れやすい  
データとかあるから」  
白石 「いやあでも」  
主任 「大丈夫」  
坂本 「ふーっ、はっ！（演技の最後のポー  
ズ）」  
白石 「自信ないです」  
主任 「大丈夫だって。ほら。試験にも合格し  
てるんだから自信もって」  
白石 「はい」

坂本 のゴージャスを外す白石  
「陰陽師・安倍晴明には特別な思いがあ  
ります」  
白石 「坂本様」  
坂本 「プルシエンコ？」  
白石 「プルシエンコではありません」  
坂本 「タラソワコーチ？」  
白石 「タラソワコーチではありません」  
坂本 「プーさん？」  
白石 「プーさんでもない」  
坂本 「4回転の秘訣ですか？」  
白石 「聞いてません」  
静かに東京グールのポーズをとる坂本  
白石 「あの」  
坂本 「東京グールのポーズです。僕大ファン  
なんです。超面白いです東京グール」  
白石 「目を覚ませ！」  
怒鳴られて一瞬自我を崩壊しかける坂本  
止めに入る主任

主任 「羽生選手！金メダルおめでとうござい  
ます！」

坂本 「国民の皆さんのおかげです。ありがと  
うございます」

主任 「馬鹿なにやっつてんだよ」

白石 「すいません、つい」

主任 「冷静にお伝えしないとああやって心が  
壊れるから」

白石 「はいそうですね」

主任 「落ち着いて、な？」

白石、坂本へ声をかける

白石 「坂本様？」

坂本 「ベイマックス？」

白石 「ベイマックスではありません。本日は  
坂本様にお伝えしなければいけないこと  
があります」

坂本 「パレードは仙台でやります。被災地の  
ために」

白石 「坂本様」

坂本 「（沿道の皆様に挨拶するように）パレ  
ードの練習しなきゃ、ありがとう！あり  
がとう！ほらプーもありがとうって！あ  
りがとうございます！」

白石 「坂本様！よく聞いてください」

坂本 「プーさん、だーいすき」

白石 「あなたは羽生結弦じゃない」

坂本 「…はいー？」

白石 「あなたは羽生結弦じゃないんです！」

坂本 「何を言ってるんですかー？」

白石 「あなたは羽生結弦じゃないんです！」

坂本 「昌磨！昌磨！寝るな！」

白石 「宇野昌磨君はいない！そこにはいな  
い！寝てません！」

坂本 「はいー？」

白石 「ダメだ…」

主任 「諦めんな！ほら根気強く」

白石 「羽生君じゃない！」

坂本 「はいー？」

白石 「羽生君じゃない！」

坂本 「プー？」

白石 「羽生君じゃない！」

坂本 「プー？」

白石 「ああ！手が出そう！先輩手が出そうで  
す！」

主任 「絶対出しちゃダメだから！頑張れ！」

白石 「羽生君」

坂本 「はい」

白石 「はい」

坂本 「はい」

白石 「ではない！」

坂本 「プー？」

白石 「羽生君」

坂本 「どうも羽生結弦です」

白石 「ではない！」

坂本 「プー？」

少し手を出す白石

坂本 「うぐ」

主任 「こら！白石！」

白石 「ああ、ちよつとやっちゃった！」

主任 「ダメだよ。ちゃんと話して説得しないと」

白石 「でもこれ無理ですよ。プーとか言ってますよ。プーってなんだ」

主任 「ほら、この顧客が憧れの対象とあまりにも風貌が違うケースの場合は？」

白石 「そうだ」

倒れて天井を見上げる坂本

坂本 「このままゆづのスケート終わるのかな……いや終わらない。終わらせるもんか。ゆづ諦めない。ゆづはあきらめない！」

白石 「坂本様」

坂本 「北京オリンピックまで諦めません」

鏡を向ける白石

白石 「坂本様、これがあなたです」

坂本 「へあ？」

白石 「これがあなたの顔。あなたは羽生結弦ではない。現実に戻ってください」

坂本 「へあ？」

白石 「現実を見ろ！」

坂本 「……へあ？」

白石 「おい！」

坂本 「へあ？」

白石 「先輩、これももうどうにもならないです」

坂本の頭をかち割る主任

倒れる坂本

白石 「あ、先輩！」

主任 「ショック療法、これで無理だったらもう病院行きだな」

目を覚ます坂本

---

白石  
坂本  
白石

「あ、目を覚ました。どっちだ？羽生君か？坂本様か？」

「…ハーチミーツ食べたいんだプー」

「プーさんになっちやった」

【L・暗転】